

【研究の概要】

【研究テーマ】

多様な「観」を愉しむ家庭科学習

【家庭科学習でめざす子どもの姿】

家庭科における多様な「観」を愉しむ姿とは、思いや願いを基に設定した目標の達成に向けて、自分とは違う経験や考えをもつ仲間と対話する中で、葛藤したり納得したりしながら、生活をよりよくしようとする姿である。具体的には、以下の姿が見られると仮定する。

前提として表出する姿	・自分とは違う経験や考えに興味をもつ姿
感じる段階	・自分と仲間の経験や考えとを比較する姿 ・自分の考えを自覚する姿 ・仲間と対話する中で、葛藤したり納得したりする姿
調整する段階	・設定した目標の達成に向けて、生活をよりよくしようとする姿

【問題意識】

仲間との対話を通して、生活をよりよくしようとする姿が一部の子どもにしか見られないこと

・家庭科で学んだ内容を家庭生活にどのように生かすかについては、それぞれの家庭の実情によるという意識があり、対話をする必要性を感じにくいこと

・互いに考えを主張し合ったり、自分とは違う仲間の考えを、否定・批判し合ったりするだけに留まっている子どもがいること

【研究の視点①】

多様な「観」を子どもから表出させるための手立て

【研究の視点②】

子どもが多様な「観」を愉しむための手立て

【研究内容】

1 まさつを通して、生活をよりよくしようとするための学習指導の在り方

家庭科における「観」とは、生活をよりよくしようとする際に、結論を方向付ける見方・考え方のことである。例えば、カレー作りの計画を立てる際に、「にんじんは、食感を楽しむために大きく切りたい」「にんじんは、火が通りやすくするために薄くしたい」等、調理についての見方・考え方を基に切り方を決定していく姿が考えられる。この時に働く見方・考え方は、これまでの経験や好み、性格等が背景として表出されているため、一人一人違うと考える。

子どもは、観の違いを基に学び合う中で、時にぶつかり、否定・批判し合う。その中でぶつかり合うことから避けるために、次第に自分の考えを伝えることを諦める姿も見られた。ぶつかり合うことは、決して悪いことではなく自然なことである。本研究を通して、観の違いのぶつかり合いは生活をよりよくしようとするために必要なことだと捉え直し、違いを大切にすることができるようになりたい。そのことを子どもと共有するために、考えを主張し合ったり、否定・批判し合ったりしている状態を「まさつ」と定義する。まさつすることのよさは、葛藤したり納得したりする中で、観を広げることができることだと考える。このように、まさつを通じた学びの捉え直しを行うことで、生活をよりよくしようとする姿をめざす。そこで今年度は、2つの視点を基に研究を進めていく。

【研究の視点①多様な「観」を子どもから表出させるための手立て】

子どもの思いや願いを基に共通の目標を設定する。共通の目標を達成するために多様な観が表出され、違いが明確になることによって、対話をする必要性を感じることができるのではないかと考える。

【研究の視点②まさつを通して、生活をよりよくしようとするための手立て】

観を広げるためには、相手の立場に立って物事を考えてみる経験が必要であると考え。そのため、まさつが起きている時に、共通体験できる場を設定したり、考えの背景を視覚化できるような掲示物や教材の工夫をしたりする。

1 題材名

おいしい野菜いため大作戦！

2 題材の目標及び評価規準

B(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)、イ		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
調理に必要な手順が分かり、調理計画の中でも調理に適した切り方及び材料に適したいため方について理解できるとともに、材料に適したいため方ができる。	おいしく食べるために、調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現して課題を解決することができる。	おいしく食べるために、課題の解決に向けて考えの違う仲間と比較・検討しながら取り組み、食生活をよりよくしようと工夫し、実践しようとする。
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
① 調理に必要な手順が分かっている。 ② 調理に適した切り方や材料に適したいため方について理解している。 ③ 材料に適したいため方ができる。	① おいしく食べるために、調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定している。 ② 様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現して課題を解決する力を身に付けている。	① おいしく食べるために、課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり振り返って改善したりして、食生活を工夫し、実践しようとしている。

3 題材について

本題材は、調理の基礎について理解し、おいしい野菜いためを調理するために計画を工夫する活動を通して、課題を解決する力を養い、食生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することをねらいとしている。

今回は、葉物野菜のキャベツ、根菜の人参、果菜類のピーマンの3種類の食材をいためて調理する。おいしい野菜いためにするためには、いためるという調理に適した野菜の切り方が重要となる。野菜の特徴を生かした切り方や、自分の好みに応じた切り方をすることで食材は同じでも様々な野菜いためができる。自分とは違う考えをもつ仲間と調理計画を考えることを通して、おいしく食べるために工夫し実践しようとする姿が期待できる。

このような内容を学習することは、仲間と対話する中で多様な「観」に出合うことを通して、よりよいものを見いだす力を育むことができ、意義がある。

4 子どもについて

いためる調理について子どもにアンケートを取ったところ、多くの子どもがいためる調理をした経験があると回答した。さらに、調理をする時に意識していることについての項目において、「火加減」と回答する子どもも多く見られた。宿泊学習でカレーを作った時に、火が通りやすくするために切り方を工夫する姿は見られたが、「切り方」と回答している子どもは一人もいなかった。家庭科の学習においては、目標達成に向けてこれまでの経験を基に自分の考えを仲間に伝えることができる。一方で、グループで何かを決定するための対話では、自分とは違う考えをもつ仲間に対して、否定・批判で留まってしまったり、自分の考えを伝えることを諦めてしまったりすることがあるため、仲間とよりよくしようと考える姿については、課題がある。

抽出児について

※ 個人情報保護の観点から、省略します。

5 研究内容

題材における、多様な「観」を愉しむ子どもの姿	
自分のこだわりを自覚する姿。自分が選んだ切り方と仲間が選んだ切り方のよさを比較し、どの切り方がよいか迷う姿。よりよい切り方を、仲間とともに決定する姿。	
1：まさつを通して、生活をよりよくしようと考えるための学習指導の在り方	
〔研究の視点①多様な「観」を子どもから表出させるための手立て〕	
本題材では、実践①（1回目の調理実習）を行った後に、グループで「おいしくできたか」について見た目や食感などを観点に振り返る場を設定することで、「にんじんが少し硬かったから、切り方を工夫したい」などのやってみてみたいという気持ちをもつことができるようにする。その後、実践②に向けて、見た目や食感などを観点に、「おいしい野菜のため」についてグループごとに具体的に考えさせることで、共通の目標を設定させる。そうすることで、目標達成に向けた対話の中で「にんじんは細く切った方が、火が通りやすい。」や、「大きい方が見た目がよい。」などの、経験や好みを基に違いが明確になり、対話をする必要性を感じることができるようにする。	
〔研究の視点②まさつを通して、生活をよりよくしようと考えるための手立て〕	
本時では、グループで設定した目標達成に向けた野菜の切り方や大きさについて迷った時に実際に食材を切って試せる場を設定することで、仲間が伝えなかったことを体験しながら理解しようとしたり、伝えることが難しい子どもが、自分の選んだ切り方のよさを伝えたりすることができるようにする。仲間との対話や、実際に食材を切って野菜の切り方や大きさを試す過程で、考えの違う仲間の理由を聞いて葛藤したり納得したりしながら、野菜の切り方を決定する姿を期待する。	

6 題材指導計画（9時間）

段階	主な学習活動及び学習内容	教師の手立て	知・技	意・情・表	態
生み出す (1)	1 これまでの経験を共有したり、3種類の野菜の特徴を考えたりしながら、調理の仕方について課題を設定する。〈1時間〉 ○ これまでの経験 ○ 3種類の野菜の特徴 ○ 設定した課題（例） おいしい野菜いためをつくるために工夫したい。	○ 野菜を実際に触ったりにおったりすることで、にんじんは固いことやピーマンは特有のにおいがあることなどの野菜の特徴に気づき、調理実習への期待感や不安感を抱くことができるようにする。 ○ 野菜の特徴を基に、期待感や不安感を抱いている子どもにこれまでの調理経験を想起させ、「切り方」「加熱時間」を工夫することのよさを共有することで、自分なりの課題を設定することができるようにする。		①	
	記述分析				
挑む (3)	2 加熱をすることでの野菜の変化を理解し、実践①を行う。〈3時間〉 ○ 野菜の変化 (1) ○ 切り方（実践①） (2) ○ 成果や課題	○ 野菜の切り方や、加熱時間を変えて実際にいためた野菜の変化を観察する場を設定することで、野菜はいためると水分が抜けて小さくなることや、においが変化することを理解できるようにする。 ○ 教師が指定した野菜の切り方で調理し、感想を全体で共有することで、「にんじんが少し硬かったから、切り方を工夫したい」など、切り方について課題意識をもつことができるようにする。	②		
	記述分析 発言分析		①		
生み出す (2)	3 グループでめざす野菜いためについて考え、実践②に向けた計画を立てる。〈2時間〉 ○ めざす野菜いため (1) ○ 切り方や大きさの決定 (1)	○ 実践①を基にグループでめざす野菜いためについて考える場を設定することで、経験や好みを基にした、多様な考えを出し合いながら、具体的な目標を決定できるようにする。 ○ 実際に食材を切って試せる場を設定することで、仲間が伝えなかったことを体験しながら理解しようとしたり、伝えることが難しい子どもが自分の選んだ切り方のよさを伝えたりすることができるようにする。		①	
	記述分析 発言分析			②	
本時 1/2					
生かす (3)	4 実践②を行い、これからの生活に生かせそうなことを考える。〈3時間〉 ○ 切り方（実践②） (2) ○ 生活に生かせそうなこと (1)	○ 自分たちが決定した切り方で実践できるようにすることで、設定した目標に合わせて切り方を工夫することのよさに気付くことができるようにする。	③		
	行動分析				①
記述分析					

7 本時の目標

おいしい野菜いためにするために、野菜の特徴やグループの目標に合わせた切り方を決定することができる。

8 本時の指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	教師の手立て
<p>1 実践①で振り返ったことを共有し、本時のめあてを設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 成果や課題 <ul style="list-style-type: none"> ・「にんじんが大きくて、しっかり火が通っていなかったから、大きさを変えたい。」 ・「見た目がバラバラだったから、見た目のバランスをよくしたい。」 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> おいしい野菜いためをつくるために切り方を決定しよう。 </div> ○ 実践②に向けた条件 <ul style="list-style-type: none"> ・ 強火で行うこと ・ いためる時間は10分以内とすること <p>2 自分がよりよいと思う切り方とその理由について考え全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 切り方とその理由 <ul style="list-style-type: none"> ・「ピーマンの苦みを感じたくないから、みじん切りがいいな。」 ・「にんじんは、大きい方があまさを感じやすいから、輪切りがいいな。」 <p>3 グループの目標に合った野菜の切り方について仲間と比較・検討し、グループに合った切り方を決定する。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループの目標に合った切り方 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくは、にんじんは薄めのいちょう切りがいいと思うな。なぜなら、薄くすることで、火が通りやすくなって食べやすくなるから。」 ・「私は、厚めの短冊切りがいいと思うな。短冊切りだとバランスよく火も通るし、食感を楽しむこともできそうな気がするな。」 ・「確かに…。わたしたちは、食感を楽しむという目標があるから、短冊切りもいいかもな。」 ・「実際に、試してみよう。」 ・「試してみて分かったけど、薄めのいちょう切りはすぐに火が通りそうだから、厚めの短冊切りがいいかもな。」 </div> <p>4 本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 切り方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・「これまで、切り方は意識したことがなかったけど、切り方を工夫することで、おいしい野菜いためを作ることができそう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践①で切り方についての成果や課題を共有することで、切り方の工夫によってよりおいしい野菜いためができる期待感をもちながら、本時のめあてを設定することができるようにする。 ○ 左記の条件を提示することで、「切り方」の工夫に焦点を当てながら、計画を立てることができるようにする。 ○ 自分がよいと思った切り方とその理由について考えさせることで、おいしい野菜いためを作るために大切にしていることについて自覚することができるようにする。 ○ よりよいと思う切り方とその理由について全体で共有することで、自分とは違う感じ方や考えに興味をもつことができるようにする。 ○ 同じ目標をもっている仲間と対話する場を設定することで、自分と仲間の考えの違いに気づき、対話をする必要性を感じることができるようにする。 ○ 実際に食材を切って試せる場を設定することで、仲間が伝えたかったことを体験しながら理解しようとしたり、伝えることが難しい子どもが自分の選んだ切り方のよさを伝えたりすることができるようにする。 ○ 「まさつ」が起きている中で、相手の立場に立って考えようとしたり、諦めずに伝えたりしている姿を価値付けることで、全員が目標達成に向けてよりよい切り方を見出そうすることができるようにする。 ○ 「考えが違う仲間と対話をしたことでよりよい切り方を見つけた」等、仲間との対話によって、考えが深まった子どもを意図的に指名することで、「まさつ」することのよさに気付くことができるようにする。

9 本時の評価規準

おいしい野菜いためにするために根菜や葉物野菜、においの違いなどの野菜の特徴に目を向けながら、グループの目標に合わせた切り方を決定している。（思考・判断・表現②）【発言分析・記述分析】

6月23日(火) おいしい野菜のため大作戦②

見た目 食感 苦味 苦味を感じないようにしたい?

どんな切り方にするかを考えよう

食感がよめた
ピーマンの苦味が
ほな
苦味は消たい

名前プレート

らん切り
みじん切り
せん切り(種)

せん切り(皮)
どろろ
種切り

名前プレート
名前プレート
名前プレート

ピーマンの大き
見せたい

苦味が残る
食感を消したい
残り
→ちゃんと食入られる
手間
迷うな
苦味

5「いろいろな切り方」
切り方には
いろいろな
よさがある

おいしい野菜のため大作戦

- 1 目標決
- 2 野菜の変化
- 3 実践①
- 4
- 5 いろいろな切り方
- 6
- 7 実践②
- 8
- 9 ふりがえり

見た目よ
食感
味の深さ

強火
10分以内